

1月24日  
人間の虚偽と神の真実  
ローマ3章1～4節

3:1 では、ユダヤ人のすぐれたところは、いったい何ですか。割礼にどんな益があるのですか。

3:2 それは、あらゆる点から見て、大いにあります。第一に、彼らは神のいろいろなおことばをゆだねられています。

3:3 では、いったいどうなのですか。彼らのうちに不真実な者があつたら、その不真実によって、神の真実が無に帰することになるでしょうか。

3:4 絶対にそんなことはありません。たとい、すべての人を偽り者としても、神は真実な方であるとすべきです。それは、「あなたが、そのみことばによって正しいとされ、さばかれるときには勝利を得られるため。」と書いてあるとおりです。

元旦礼拝から先週の1月17日の礼拝まで  
羊シリーズ、

詩篇23篇、ヨハネ10章、ヨハネ1章、

ルカ15章から羊と羊を愛し守る羊飼いの姿を学ん  
できました。

今日も今年の年間聖句

詩篇23篇1節を皆様と一緒に朗読しましょう。

「主は、私の羊飼い。

私は、乏しいことはありません。」

先週は迷った一匹の羊を見つかるまで  
野を超え、山を越えて捜して、見つけ出し、  
疲れ切って歩けなくなっている羊を  
叱ることなく大切に肩の上に担って  
山を下り、家に帰って来て  
家族や近所の人を呼んで  
喜ぶ姿を学びました。

孤独、恐怖、不安の中にいた羊が飼い主に見出されて、肩に担がれて家に帰る中で  
羊は羊飼いから伝わってくる  
心臓の鼓動、体のぬくもり、羊が落ちないように、  
羊の前足、後ろ足をしっかりと握っている羊飼いの  
手からも安心感を体得していました。  
心の傷も癒されて行きました。

さらに羊飼いは羊を家畜小屋ではなく  
羊飼いの家に連れて行き、  
近所の人を呼んでお祝いをしました。  
肉や盃、パンやケーキがあったでしょうか。  
放蕩息子の時は肥えた子牛が料理されました。



パーティーは手段  
パンもぶどう酒も肉も  
大切な要素ではありますが  
それらを通して赦されている事、  
愛されている事、  
受け入れられていることが心に刻まれて  
心の交流が進み、癒されて行きます。

迷っている時  
羊はどんなことを  
考えていたのでしょうか。  
どんなことをつぶやいていたのでしょうか。  
どんなことを  
自問自答していたのでしょうか。

自分を責めていた。  
オレはバカだ。  
オレは能無しだ。  
目が悪い、  
嗅覚も悪い。  
だから迷ったのだ。  
それは親のせいだ、遺伝だ。  
自分を責め、親を責めます。

仲間も責めます。仲間のせいにします。  
なぜはぐれたオレに声をかけて  
くれなかったのか。  
みんなオレを仲間外れにしてしまった。

羊飼いにも怒りは向くでしょうね。  
オレが迷っているのに  
なぜ羊飼いは放っておいたのか。

なぜオレは目が悪い、勘が鈍い、嗅覚が悪い。

親のせい、このように作った神様のせい？

私が不完全なのは、神様が不完全なのだろうか。

ローマ3章3節

彼らのうちに不真実な者があつたら、その不真実によって、神の真実が無に帰することになるでしょうか。

人間には問題がある、  
自分のせいにして自分を責め、否定する。  
こんな自分を生み育てた親を責め、  
また他人を責め、学校、先生、  
社会や教会を責める。  
問題に向き合っていない。

**3章4節にダビデの悔い改めの  
詩篇が引用されています。**



ダビデは王でありましたが  
部下ウリヤが戦場で戦っている時、  
誘惑に負けて彼の妻と不倫の罪を犯し、  
ウリヤの妻バテシェバは妊娠。  
ダビデは証拠隠滅、隠ぺい工作、  
ごまかそうとあらゆることをして、  
最後ウリヤを激戦地に送り、  
戦死させています。

ダビデが自分の罪を認めず、  
隠ぺい工作をしている時、  
他人のせいにしていて  
自分の罪に向き合っていないときの  
苦しみが書いています。

## 詩篇32篇

32:3 私は黙っていたときには、一日中、  
うめいて、私の骨々は疲れ果てました。

32:4 それは、御手が昼も夜も私の上に  
重くのしかかり、私の骨髓は、  
夏のひでりでかわききったからです。

罪を犯し、隠ぺい工作を繰り返し、  
心の平安、王としての気品を失い、  
神様から逃げているダビデも迷っている  
一匹の羊です。

神様は逃げて隠れて迷っている  
ダビデを追いかけておられます。  
ダビデの心に良心を送り、  
預言者ナタンを遣わして  
あなたは罪人ですと迫っています。

## ローマ3章4節

それは、「あなたが、そのみことばによって  
正しいとされ、さばかれるときには  
勝利を得られるため。」

と書いてあるとおりです。

ナタンを通して語られる神様のことばによって  
ダビデは自分の罪を認めて、  
悔い改めて信仰の勝利者、  
人生の勝利者となっています。

罪を認め、告白することで、  
赦され心に平安が与えられました。

プライドを捨て、恥をかいてでも  
自分の罪を認め、失敗を認め、  
神様の前に降伏、敗北を認めることです。

逆説的ではありますが  
ダビデは人生の、信仰の  
勝利者となっています。

羊がかたくなに我を張って  
助けられることを拒み  
肩に担われるのを拒むなら  
救出はありませんでした。

人のせいにしないで  
罪に向き合って罪を認めることで、  
罪が赦されて  
心が雪よりも白くなっています。  
それは自動的に白くなったのではなく  
イエス様が罪の汚れを身代わりに  
受け取ってくださったからであります。



イエス様が十字架の上で  
私たちの罪を背負ってくださった。  
このことを認めて罪を悔い改める時  
赦され心は雪のように白くなります。

手が泥だらけで汚れていても  
きれいな水で洗えばきれいになります。

手はきれいになりますが、水は汚くなります。

イエス様は私たちの心の汚れをきれいにするために

私たちの汚れを身に受けて

身代わりに汚くなってくださいました。

イエス様を受け入れる時に

私たちの心は雪のように白くなります。

迷える羊を捜して見つけた羊飼いは  
羊を叱らず、羊を赦して  
羊を背負って家に帰ってきました。

羊を背負って歩かれる姿が  
十字架を背負って歩かれる姿と  
重なって見えます。

イエス様は私たちが罪のさばきとして受けなければ  
ならない十字架の刑罰を身代わりに負ってください  
ました。

それによって私たちの罪が赦されました。

体のぬくもりだけでなく  
私たちの肩の上にはずしりとある罪の重荷を  
背負ってくださったことにより  
私たちの心も体も軽くしてくださいました。

## ヨハネの手紙第一 1:9

もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

自分の罪を認め、悔い改めて  
赦しを味わい  
勝利の人生を歩みましょう。

祈り